巻　頭　言

本号から研究室年報の名称がRUSISTIKAからSLAVISTIKAとなった。昨年の４月に研究室が「露語露文学研究室」から「スラヴ語スラヴ文学研究室」と改称されたことに伴うものであるが，教官も助手を含めて５名となり，学部学生，大学院生，それに研究生を合わせて４５名に及ぶ「大講座」となった。これは，創設以来の諸先輩先生方の長年にわたる並々ならぬ御努力と御苦心の結実であって，その意味で，前号の「栗原成郎教授記念号」に続いて，本号が「川端香男里教授退官記念号」として刊行されたことは，スタッフ一同誠に感慨深いものがある。特に本号は，御覧のように，川端香男里教授の薫陶を受けた卒業生諸氏の力のこもった多彩な論考が，教授への感謝を込めて多数寄せられていて，「スラヴ語スラヴ文学研究室」への改称がむしろ後から追いついたという感を抱かせる内容となっている。このことは巻末の博士論文，修士論文，卒業論文の一覧からもうかがえるであろう。

最後に，本号の刊行に際しては，数多くの方々に御協力頂いた。心から感謝する次第である。

平成７年１０月１日

米重文樹